# 唐丹の歴史いろいろ（九）

## 伊達のお姫様の駆け落ち事件「お節・喜右衛門悲恋の道行き」（二）

大船渡市吉浜
木村正継

### 大事件の始まり

歌詞…
私とお前は　こうなるから
は
たとえ火の中　水底迄も
修羅の地獄で　責めらるとても
二人諸共　離れはせまい
そこで奥様　申さる様は
一世ばかりは　思いの種よ
二世も三世も　又先の世も
末の松山波越すとても
変わるまいそや　変わらず
ものと
堅い定めの　起請を書いて
そこで奥様　申さる様は
最早今宵も　子の時なれば
名残惜しくもお帰りあれと
云えば喜右工門　別れを借
しみ
名残惜しくも御寝間を急ぐ
去らば去らばと別れて出る
表廊下を　忍んで行けば
運の極めの　限りし事は
旦那能登様　酒宴に疲れ
表座敷に　丸寝をなさる
通る足音　現つに聞いて
さても怪しや　何者なると
誰じゃ誰じゃと　追いかけ
られて…

### 逃避行

発見された喜右工門と能登の切合いになり駆付けた節が母の譲りの薙刀で劣勢の喜右工門に加勢して夫を討ちとめ逃避行が始まります。

歌詞…
郡境に　翁倉ケ嶽よ
桃生一番　たけたる山よ
命限りに　峰へと登り
登り極めて　暫く休む…

ここから国道45号線に沿って北上します。

以下歌詞では、通過の地名等が列挙されます。

水戸辺の宿・おもろの宿
横山不動・志津川町・伊里の磯辺・小泉町・大谷の町
才知の浜・ごん鱈通り・松岩村・つなぎの坂・赤岩
気仙沼町・唐桑通り・御崎の明神様・八亀の石・今泉町と続きます。

歌詞…
急ぐ程にや　気仙の高田
されば藤七　立者なれば
彼を力に　頼まんものと
高田藤七　いずこと聞けば
近所そこよと教えにまかせ
翌日藤七　案内なして
二人連れ立ち南部へ越えて
南部釜石　仁助が許を
尋ね来たりて　ようやく入りて

### 釜石での暮らし

先ずは仁助に　対面ありて
そこで藤七　申さる様は
是は仙台　落人なるが
どうぞ二人老かくして給へ
聞いて仁助が　不憫に思い
裏へ廻して　洗足つかせ
二階座敷に　忍ばせ申し
明けて翌日は其の町はずれ
非人頭の　左内が方へ
暫し頼んで　忍ばせ置いて
万事世間に　心を付けて
心おきなくかくまいければ
先ずは藤七　国へと帰る
さればその後は仁助が夫婦
夜増し日増しに不憫に思い
非人小屋より二人を呼んで
二階座敷の　一間に置いて
一家一門子供にまでも
深く口留め　かくまい申す
そこで二人が思案が御座る
是で末々　暮らされまいと
ここにいとしや奥様ことは
なれぬ仕付けぬ賤女の手業
人の洗濯　糸はた織りて
その日その日の　貯え申し
兼ねて器量好き奥様なれば
何を縫うても　見事な事よ
町の若衆　皆集まりて
足袋を縫うやら紙入などを
伊達に仕立て売り拡めれば
先ずは是にて浮日をしのぐ
されば喜右工門書を好き
ければ
宿の仁助に相談ありて
子供集めて　指導をなさる
最早是にて　内々極む
今は心は　ゆるゆる暮らし
初め難儀は　皆打忘れ
敵知らずに　月日を送る
…ここ釜石で束の間の幸せ
な日々を過ごしたと歌われ
ています。

川井村郷土史には、釜石到着後間もなく川井村小国（当時小国村）に逃れてここでしばらく過ごし、村人のために用水路を設計施工していまでも喜右衛門堰として残って利用されているという記述があります。